

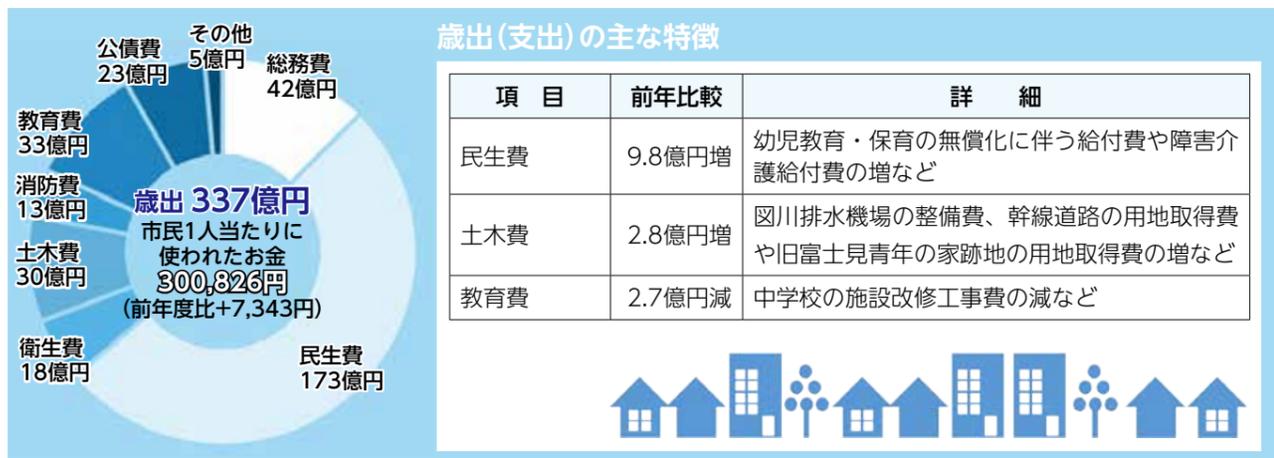
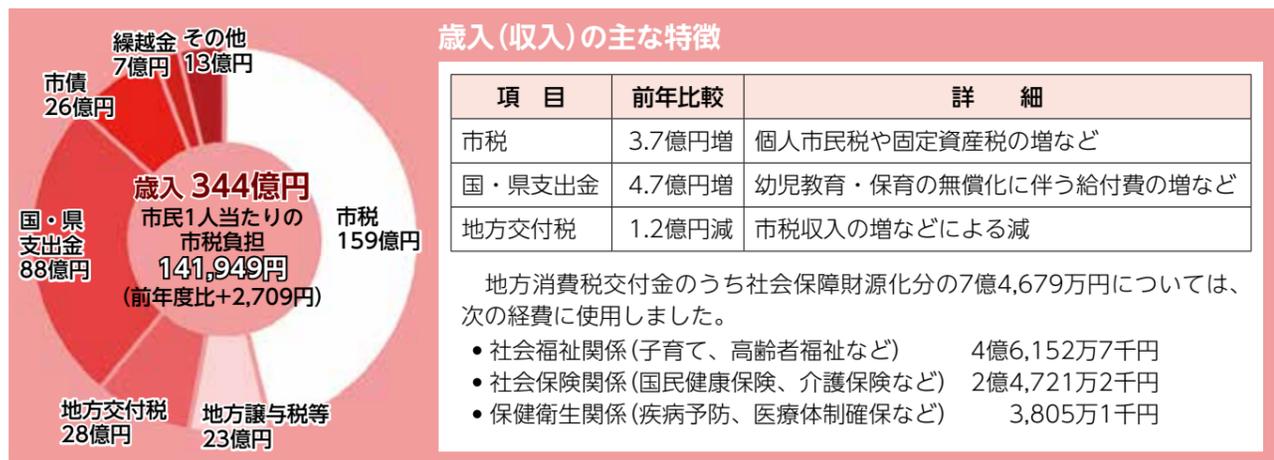
一般会計決算の概要

図 財政課 ☎235

【令和元年度一般会計決算額】

歳入(収入)は前年度と比べて5億2,204万786円増の343億9,397万7,306円、歳出(支出)は前年度と比べて9億6,078万5,617円増の336億7,323万4,832円となりました。翌年度に繰り越す財源を除いた実質収支は、6億5,360万204円の黒字となりました。

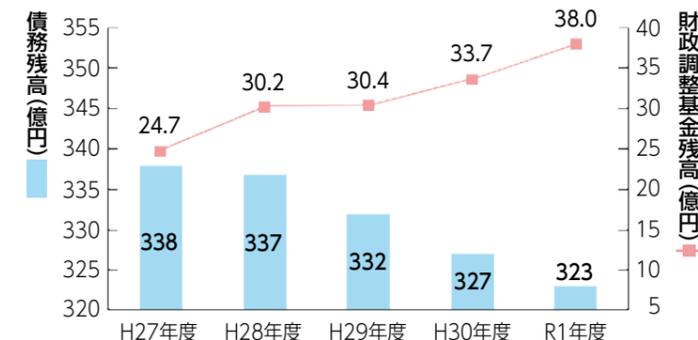
令和元年度の歳入・歳出



債務と貯金の状況

債務残高 323億円
(前年度比 △4億円)
※市の全会計の債務残高

貯金額 38.0億円
(前年度比 +4.3億円)
※財政調整基金の残高



令和元年度に取り組んだ主な事業

第5次基本構想・後期基本計画に基づき、子育て支援などの各種福祉施策の充実をはじめ、企業誘致を目指したシティゾーン整備や、観光資源としての価値を高めるびん沼自然公園の整備、近年の災害から市民生活を守るための浸水対策事業、市の魅力や情報を発信するためのシティプロモーションの拡充など、本市が力強く成長するための各種事業を展開しました。

子育て支援・教育施策

認定こども園(水子地内)の整備補助	2億4,889万円
特色のある幼児教育に取り組む私立幼稚園への補助	227万円
スクール・サポート・スタッフの配置	119万円
STEM教育の推進	92万円
若者のための学び直し相談窓口の設置	29万円
「子どもの夢つなぐ市民運動☆ふじみ」周知活動の拡大	26万円



安心安全・健康施策

浸水対策事業の推進	1億5,119万円
再生可能エネルギー機器や次世代自動車の普及促進	478万円
全市的な総合防災訓練の実施	440万円
市内3駅周辺など人通りの多い場所への街頭防犯カメラの設置	432万円
空家除却への補助	240万円
在宅の重度心身障がい児(者)を持つ家庭へのレスパイトケア促進への補助	20万円



快適で活気あるまちづくり施策

幹線道路の整備	1億4,156万円
びん沼自然公園の整備	7,214万円
デマンドタクシーの運行開始	617万円
シティプロモーションの推進	321万円
中小企業チャレンジ支援事業補助金の拡充	60万円



財政健全化の状況

本市独自基準(財政運営判断指標)

財政運営判断指標	令和元年度決算実績 ※カッコ内は前年度実績	目標値
財政力指数(※1)	0.829(0.817)	0.860
経常収支比率(※2)	91.7%(88.5%)	90.0%以下
財政調整基金比率(※3)	18.6%(16.7%)	15.0%以上
地方債残高比率(※4)	116%(115%)	120%以下
債務償還可能年限(※5)	4.5年(3.8年)	4.5年以下

(※1) 財政基盤の強さを表し、指数が大きいほど財政力が強い
(※2) 財政構造の弾力性を表し、比率が低いほど弾力性が高い
(※3) 標準的な1年間の収入(標準財政規模)に対する財政調整基金残高の割合で、比率が高いほど貯金が多い
(※4) 標準財政規模に対する地方債残高の割合で、比率が低いほど負債が小さい
(※5) 負債総額が返済可能な規模であるのかを表し、年数が小さいほど負債が小さい

国基準(健全化判断比率)

健全化判断比率	令和元年度決算実績 ※カッコ内は前年度実績	早期健全化基準値
実質赤字比率(※1)	-	12.45%以下
連結実質赤字比率(※2)	-	17.45%以下
実質公債費比率(※3)	2.2%(2.7%)	25.0%以下
将来負担比率(※4)	-	350.0%以下

(※1) 標準財政規模に対する一般会計等(一般会計、鶴瀬駅西口土地区画整理事業特別会計、鶴瀬駅東口土地区画整理事業特別会計、公共用地先行取得事業特別会計)の実質赤字額の割合で、赤字ではない場合は「-」と表記
(※2) 標準財政規模に対する市の全会計の実質赤字額の割合で、赤字ではない場合は「-」と表記
(※3) 標準財政規模に対する一般会計等で負担する借入金の償還金等の割合で、比率が小さいほど負債が小さい
(※4) 標準財政規模に対する一般会計等で将来負担する負債の割合で、充当可能財源が将来負担額を上回る場合は「-」と表記